



令和4年度

鹿児島島の教育

9月号

巻頭言



一般財団法人鹿児島県校長会館理事
県連合校長協会小学校長副部会長

鹿児島市立山下小学校長
下 假 屋 誠

大切にしたい「判断の過程」

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を毎週楽しみ
にしている方も多しことだろう。自らの立場
や一族を守るために、頼朝やそれぞれ御家人
が命がけで下す判断や決断には、驚かされ、
考えさせられることが多い。陰謀、裏切り、
野望とドラマならではの脚色もあるが、自
分がこの立場ならどのように判断するか、ど
う動くか、暫し考えても答えが見つからない。
こんな私が当時の御家人の一人なら、その生
涯を取り上げられるまでもなく、ナレーショ
ンで死んだことにされる、いわゆる「ナレ死」
で申し訳ないだろう。

昭和十七年六月五日は太平洋戦争の大きな
節目となったミッドウェー海戦の日である。
この海戦は、部隊の最高指揮官の判断が命運
を分けたと言われ、日本海軍はこの海戦での
敗北によって事実上壊滅したとされている。
作戦の不備、慢心、情報戦で技術的な差など
敗北の原因が分析されているが、部下の進言
や刻々と入る情報等、様々な判断材料をも
とに指揮官が下した判断の誤りが敗北につな
がったのは史実である。
判断場面において、結果が凶と出た時に、
「逆にしておけばよかったのに」と言われる
ことがあるが、それは無責任な結果論であ
る。クイズやゲームならそれでもよいが、学
校教育活動における様々な場面での判断とな

れば、「二か八か」というわけにはいかない。
そんな時、苦しい時の何とやらで安易に「前
例踏襲」に頼ることがある。経験上六割程度
はうまくいくが、如何せん六割程度である。
残り四割に対する不満と安直に判断した自責
の念を感じることが多い。しかし、前例を全
く無視することは新たな判断の叩き台を失う
し、一から判断を構築していったのでは間に合
わない。前例を判断の候補とするのではなく、
前例を判断材料の一つとして吟味し、他の多
くの判断材料を収集・検討して新たな判断を
生み出していくことが必要なのだろう。仮に、
新たな判断が前例と表面上同じになっても、
他の材料を加え検討と吟味を重ねた結果がた
またま同じになっただけで「前例の踏襲」で
はない。

校長の業務には、多くの判断がついて回る。
判断が正しかったか否かは後の評価に委ねる
としても、校長自身が判断の過程に自信が持
てない判断によって、子供や職員が不利益を
被ることになれば校長として悔いが残る。そ
うならないために、判断に必要な材料集めと
自分の中の判断システムの構築に躍起になる
毎日である。

校長は「ナレ死」で終わるわけにはいかな
い。

* おもな内容 *

巻頭言	1	話のひろば	13
随想	2	読書案内	14
提言	3	趣味・文芸	17
わが校の学校経営	5	郷土の紹介	18
子どもが輝く教育	7	総務部だより	19
心に残るひとこと	9	一般財団法人校長会館だより	20
ある日の校長講話	11	編集後記	20

令和4(2022)年9月号

一般財団法人鹿児島県校長会館

〒890-0056 鹿児島市下荒田四丁目32-13

振替 02030-1-3192

TEL 257-9676 FAX 257-9679

(有) アート印刷

鹿児島市東坂元二丁目29-1

TEL 247-1605 FAX 247-2844



コロナウイルスと

共生する社会を目指して

伊仙クリニック院長 水田 博之

全く何という時代になってしまったのでしょうか！多くの人の命を奪うウイルスが蔓延するなんて。誰もが想像することができなかった困難な時代に私たちは生きています。これまで多くの国々がこのウイルスを駆除するためにありとあらゆる策を講じましたが、いまだに駆除することができないでいるのです。

私はこのウイルスと共生していく社会について考えてみました。コロナウイルスとの共生において重要なことは三つあります。

一つ目は、感染を蔓延させないことです。ご存じのとおり、コロナウイルスは人から人、動物から人へと感染を繰り返していきます。そして高齢者や基礎疾患のために体の弱った人の命を奪っていくのです。世界中で、突然、大切な家族の命を奪われた人々が悲しみを抱えて暮らしています。私たちはこういった理不尽な死を防ぐために感染対策を行う必要があります。感染防御のためマスクの着用、ワクチンの接種、ソーシャルディスタンスが推奨されています。これらを継続的に行わなければなりません。二つ目は、感染対策をしながら経済活動を行うことです。ウイルス蔓延後は行きたい旅行にも行けず、友人と外食やショッピングを楽しむ

ことができなくなりました。しかしながら、感染対策を行いながらこれらの経済活動を続けていくことができるのです。また、オンライン授業、オンライン会議を活用したりリモートワークを行う環境も整ってきており、それらを取り入れている学校や企業も増えてきました。

三つ目は、最も大切なことなのですが、コロナ差別をなくすということです。コロナウイルスそのものよりも、そのことによって人を差別する人間の心の方がよっぽど恐ろしいと思います。誰かが熱を出せば、「あの人はコロナじゃないか？」と疑ったり、感染者が出たら、その人が誰なのかを突き止めようとしたりする。コロナにかかった人のことを悪く言い、その人の家族の悪口を言う。すべて私たちの内なる悪意が、社会を住みにくいものに変えてしまおうとしているのです。コロナよりも恐ろしいのは、人を差別する「人の心」なのです。自分がコロナにかかるともわかれまいという恐怖から疑心暗鬼になる気持ちもわかります。しかしながら、人間の心はもつと強く、人を思いやり、弱い人を助けたい良心であふれているはずで

す。コロナと闘いながら共生し、暮らしていくこと。これはすなわち自分自身の内に潜む弱い心

1970年 兵庫県明石市生まれ。
1995年 大阪府立大学工学部経営工学科卒業、1997年同大学院修了
2005年 神戸大学医学部卒業後、神戸徳洲会病院、福岡徳洲会病院、徳之島徳洲会病院副院長を経て伊仙クリニック院長に就任。総合内科専門医、産業医。

に打ち勝つことなのです。コロナウイルスに感染した人はどんな理由にせよ「弱い立場にある人」なのです。その家族もまた同様に「弱い立場にある」のです。彼らにやさしく接し、気遣いすることがコロナと共生していく上でのキーワードになります。私はそういった心のある人が増える世の中になることを願っています。それこそが「コロナと共生する社会」なのだと思っています。

「コロナと共生する社会」をつくることは容易なことではないかもしれませんが、しかし、一人一人のやさしい気持ちで、コロナ禍にあってもしも住みよい社会をつくっていくのです。コロナを治療する薬がなくても、私たちにできることはあります。コロナにかかった人にやさしく接すること、その家族にも同様にやさしく接すること、コロナで大切な人を亡くした人の気持ちを理解し寄り添うこと。コロナ禍の混乱の中で、自らの中にある良心の言葉に耳を傾け、それに従い行動する。危機的な時こそ人の真価は問われるのです。私は医師として、この徳之島からコロナ差別を排除し、皆が弱い立場にある人の心を思いやれる社会づくりに貢献したいです。



自ら判断し行動する教育実践

天降川小(始伊) 清水 泰博

一 はじめに

今から三十年ほど前、再配で鹿児島市内の創立百十周年を迎えようとする伝統校に赴任した私は、そこで多くのことを学んだ。当時の児童は、教師の指示待ちで覇気に乏しい印象であった。体育専門の校長が経営方針に「自ら考え判断し、行動できる児童の育成」を掲げ、児童の主体性を育むために、様々な改革を進めていた。その一つがノーチャイムで、時計を見て行動するというものであった。最初は児童だけでなく我々教職員も戸惑うことが多かったが、やがて昼休みの終わりが近づくと高学年の児童が低学年の児童に声をかけて掃除場所に向かうようになっていった。校長は方向性を示したが、具体策は職員に任せられたものだから、我々はお互いに意見を出し合い、議論しながら実践を繰り返した。校長は笑顔でその様子を見守ってくれた。私は、その学校での在籍七年間で「教育の主役は児童」という教育信念と「自ら判断し行動する教育実践」という考えをもつようになった。

二 創立十二周年の学校に赴任して

令和三年度の人事異動で、私は始良・伊佐

地区最大規模の本校に赴任した。赴任した年に霧島市教委研究指定「指導法改善」での研究公開を控えており、校内研修も研修係を中心に全職員で取り組む必要があった。私が赴任する前の二年間で、研究テーマ「学び合いを重視した主体的・対話的な授業の創造」のもと、①聴き合う関係づくり(聴きたいと思う関係づくり)、全員が聴いている授業)、②学び合いのある授業(子ども同士が繋がるように、教師の役割は「聴く、繋ぐ、戻す」、

③ジャンプの課題(学んだことを生かして、もう少しでできそうな課題に挑戦)という三つの共通実践事項のみ設定し、教科の縛りはなく、指導案ではないデザイン案という基本ペーパーの簡略化したものを作成し、相互参観授業を通して、お互いに授業力を高めていくという研究に取り組んでいた。そこには前任の校長とこれまで研究に取り組んできた職員の思いを強く感じたことから、私は方向性は変えないように配慮しながら、必要最小限のアドバイスに留めるようにした。そして研究公開当日では、これまでの本校の取組を研究発表した後に公開授業を行い、その後の

本校職員による授業研究の様子までを参観者に見てもらおうという斬新な公開を行った。相互参観授業の後に、学年部で「Aさんが学びから降りたあの場面では、ヒントカードを準備していれば避けられたのでは。」などと、熱心に議論する職員の様子を見て、私は、何よりも本校職員の「自ら判断し行動する教育実践」を尊重したのだと感じた。

年度末に研修係がとったアンケートの結果、「ジャンプの課題をもっと研究したい。」「自分は算数を中心に取り組んだが、それを他教科でも試してみたい。」などと前向きな回答が多く、今年度も同じ研究テーマで校内研修に取り組んでいる。もちろん相互参観授業も健在で、全職員が年間に最低一度は行うことになっている。

三 おわりに

「分からないと児童が言える授業」、「児童が学びから降りない授業」を合い言葉とした本研究の副産物として、児童はお互いに何でも話せる関係ができ、それが相互理解に繋がっており、高学年になるにつれて児童同士のトラブルも減ってきている。振り返りの時間をさらに充実できれば、児童の自己肯定感はいっそう高まるだろう。また、ジャンプの課題の成果から、粘り強く問題に取り組むようになり、各種調査等での無答率も低下してきている。形にとらわれず「教育の主役は児童」という視点で「自ら判断し行動する教育実践」が重要なかもしれない。



榕小卒の誇り、

夢と自信に満ちた子供の育成

榕城小(熊) 大田 高行

一 はじめに

本校は、藩政時代の種子島の殿様の居館(赤尾木城)跡地にある創立一四六年の歴史と伝統のある学校である。校区は、昔から島の中心地であり、現在でも国や県の出先機関をはじめ市役所などの公共機関のほか、金融機関、商業施設等が集中している。

また、本校区からは、種子島を文化・学問の島に築き上げた本校初代校長の前田豊山をはじめ、天声人語の名付け親である西村天囚など多くの偉人・賢人を輩出している。

二 学校・地域の特徴を魅力に

(一) 榕城魂の意識化と具現化

本校には、初代校長前田豊山の教育理念「人信無くんば立たず 規律を慎み 礼儀を厳とす」が榕城魂として脈々と受け継がれている。子供たちは、全校朝会で唱和している。また、親和会が毎年作るポロシャツの背中にもあしらわれ、職員にも浸透している。

この榕城魂の具現化として、「元氣なあいさつと返事」「靴・スリッパ並べ」を基本的な生活習慣の徹底事項として児童会活動

でも取り組んでくれている。「元氣なあいさつ」については、学校外でのあいさつの声が小さいという指摘もあることから、女性団体や高齢者団体等とも連携して、子供たちが地域であいさつをする機会を増やし、「さすが榕城魂で育った子供はすごい」と言われるようにしていきたい。

(二) 地域素材の教材化

本校は、「自ら学び、自ら考え、心豊かで夢と自信に満ちた榕城の子の育成」という学校教育目標を達成するため、これまで「情報モラル教育」や「プログラミング教育」などのICTに関連した研究・実践に取り組んできた。その成果を土台に、今年度から「学校における教育の情報化」の研究指針を受け、「学習を自分との関わりで考え、自ら学ぶ子供の育成」地域素材の教材化とICTを活用した授業づくり」というテーマを設定し、研究・実践していくこととしている。

これからの子供たちには、変化が激しく予測困難な社会において、自ら未来をたくましく切り拓いていく主体性や豊かな創造

性を身に付けることが望まれている。島の魅力について調べ、情報発信することで、主体的な学びにつながるのではないかと、職員は、夏季休業期間を使って地域素材の発掘に精を出している。

(三) 市教育理念「ひとりだちの教育」

西之表市では、「波濤を越え全国どこでもたくましく生き抜くことのできる力を備えた人間育成」と「郷土振興に情熱を燃やし郷土興しの原動力たりうる人間育成」を教育理念として各種事業が行われている。その中でも「われは海の子黒潮の子『浦田遠泳大会』」は今年で三〇回を数え、子供たちにチャレンジ精神・郷土愛を育む上で貴重な伝統行事である。職員・保護者にとその教育的意義を理解させ、PTAと一体となって取り組むことで、働き方改革の波を越えていけるのではないかと。

三 おわりに

種子島には自然や文化、伝統など、誇れるものがたくさんあり、それらを学校教育に取り入れることで、郷土に誇りをもつ子供を育てることができると考える。六年生には榕城小学校の卒業生としての誇り、夢と自信をもって卒業していつてほしい。そんな卒業生に何か形として残るものと考え、教師の協力をもらい、校内で小型の瓢箪を栽培し、ストラップにして贈った。今年も七十七個の瓢箪が実った。中にどんな思いを詰めてくれるのか期待がふくらむばかりである。



コミュニティ・スクールとして教育に責任をもち、

保護者や地域とともに歩む学校経営

湯田小(鹿) 山下 孝一郎

一 はじめに

本校は、明治三年に「達志舎」として創立し、本年度創立百五十二周年を迎えた非常に歴史ある学校である。校区は、日置市の西部に位置し、いちき串木野市と隣接しており、JR鹿兒島本線と国道三号線が通るとても交通の便に恵まれた地域にある。また、効能高い泉質の湯之元温泉でも有名で、多くの人々が訪れる地域である。

二 本校教育がめざすところ

本年度は、児童数二百二十人、職員数二十四人、学級数十一(特支学級四)である。校訓「かしこく ゆたかに たくましく」の下、学校教育目標を「主体的に学びに向かい心豊かにたくましく強く生き抜く湯田の子供の育成」としている。また、「明るく楽しく元氣よく」をキャッチフレーズにして、教育活動の工夫改善・充実に取り組んでいる。

三 三大重点目標

本年度異動してきたばかりであり、年度初めの学校経営説明では、前任の校長が作成したグラントデザインを活用させていただいた。知育、徳育、体育の多くの観点がある中から、絞り込んで説明するために、以下の三つの重点目標を示した。

(一) 基礎学力の確かな定着(知育)「子供の姿で勝負! 四十五分間の授業で勝負!」

基礎学力が定着したかどうかを見取り、評価し、次の指導に生かさなくてはならない。そのために、左に示す二点を共通理解・共通実践する。

○「形成的評価」

感覚や勘だけでなく、みんなが本当に分かっているか、挙手や類題等をさせて随時確認する。

○「ラスト十分の確保」

一斉指導を簡潔にして授業のスピードを上げること、ドリルや類題の時間確保をする。

(二) はき物そろえ「美しい靴箱」(徳育)

真の目的は、美しさではなく、「ちよつと待てよ。(二秒の心遣い)」と冷静に立ち止まれる思慮深さ」の育成である。

(三) う菌治療率100%(体育)

授業より「むし菌の治療」を優先させる。保護者を動かし、信頼関係、親近感、協力的体制等をアップさせる。

四 特色ある教育活動

従前より保護者や地域の方々の協力体制の整った学校であったが、昨年度からコミュニ

ティ・スクールとして学校運営協議会を立ち上げ、より一体となった学校教育を展開するようになった。特に次の二点は本校の特色ある取組である。

(一) 湯田校区子供を育てる会

平成十二年、子供たちの健全育成とともに、地域の活性化や住みよい町づくりを目的として地域の有志の方々により発足した会である。本会の会員が中心となり、子供たちに昔の遊びや生活等の体験をさせる「ふれあい達志塾」を年二回、夏と冬に開催し、PTAも後援となり多くの子供たちが参加している。(コロナ禍により三年間中止)

(二) キャリア教育の充実

令和元年度から二年間、県の研究指定を受けた成果を継続して取り組んでいる。本校では、キャリア教育を「子供たちが社会に出ていくために必要な資質や能力を育てる教育」と捉え、各教科の指導や特別活動(話し合い活動)の充実を図っている。また、本教育の一環として、小学生向けの高校説明会「フューチャーミープロジェクト」を毎年七月に実施している。本年度も近隣の四高校が参加して、子供たちは興味津々で話を聴いていた。

五 おわりに

「チーム湯田」のメンバーは、学校職員だけでなく、子供たちや保護者、地域住民も含めるものと考えている。コミュニティ・スクールとして学校経営を充実させるためにも、それぞれの立場で、それぞれの役割をしっかりと自覚して取り組むことで、更に魅力ある学校・地域にしていきたい。



極小規模校における教育活動の活性化

円小(大) 平 田 賢 司

一 はじめに

本校は児童数九人(一・三年、四・六年の変則複式二学級)、職員数五人(県費負担職員四人、町費職員一人)の極小規模校である。このうち町の行政支援による移住者が半数を占め、今後は不確定要素も多く、児童は減少傾向にある。このような状況で、職員の資質向上を図るとともに、日々の負担を軽減するために、校長としてどのようにマネジメントするのが、大きな課題となっている。

二 職員指導による教育活動の活性化

(一) 合同授業の実施

職員数五人という極小規模校では、職員一人当たりが担当する校務分掌は多い。児童数が少なくても、学級事務やその他の実務で、かなりの時間が必要とされる。そこで、数教科において合同授業を実施し、それぞれ職員の専門性を生かすとともに、授業準備の時間を確保できるよう配慮している。

(二) 同僚性の育成

コミュニケーションを活性化する手立てとして、全職員との「一日一会話」を実践

している。目指すのは「まとまりがあり高め合う職場」「笑い声が絶えない職場」である。一つ一つの課題を職員全員で共有するためには、円滑なコミュニケーションが必要となるが、その素地を日々の学校生活の中で作っている。また、そのことは常に支え合い、助け合うという学校の組織文化の形成に大きく役立っている。

三 教科指導・生徒指導による教育活動の活性化

(一) 共同研修の実施

学校運営全般については職員数が少ないので、協働的な意識は高まるが、教科指導力に関しては、深まりある論議がしにくい、校外の公開研究会に参加しにくいなど、離島小規模校ゆえの悩みが少なくない。そこで、鹿大教育学部附属小算数部に授業づくりから授業研究までリモートで参加していただいた。本時に限らず、日々の授業での導入時や課題設定時の発問のあり方について論議し、深まりある研修を行うことができた。今後もリモートによる共同研修の実施を模索し、職員の資質向上に努めたい。

(二) 自己肯定感を高める生徒指導

四 保護者や地域と連携した教育活動の活性化

(一) 保護者と連携した読書活動の推進

毎月二十三日を「家族読書の日」と設定し、次のような具体的な取り組み方を示しながら家庭における読書活動の活性化を進めている。①同じ時間帯に親子で同じ図書に親しむ②同じ時間帯に親子で異なる図書に親しむ③同じ時間帯に親子ともに(子どもが親に)読み聞かせをする。

(二) 地域と連携した郷土学習の推進

昨年度は婦人部の協力により、郷土料理づくりを行ったが、本年度は本校卒業生を講師に招き、校区内のフィールドワークを行った。集落に残る古い言葉や貝の種類などの座学のと、実際にかつて鮎と漁業で栄えた集落の鮎工場跡や海苔張り場を見て回った。この学びは学習発表会で発表する。

五 おわりに

教頭不在の極小規模校にあって校長の役割は大きい。日々の勤務状況を把握する中で、職員の特長や身上を理解し、さまざまな支援を継続することが重要である。そのために、校長としてのコミュニケーション・スキルやコーチング・スキルの向上に努め、極小規模校における教育活動の活性化を進めたい。



元気なあいさつがこだまのように響き、

笑顔あふれる和田小

和田小(市) 長野浩明

一 はじめに

本校は、明治三十六年四月に和田尋常小学校として創立し、令和四年の今年は百二十周年という節目の年を迎える。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、三年目。思い切り活動することが難しい状況が続いているが、「子どもたちの元気なあいさつがこだまのように響き、笑顔あふれる和田小学校」を目指している。

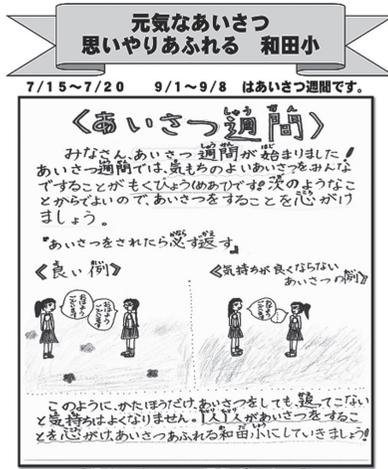
二 取組の概要

(一) 児童会の取組

児童会で「元気なあいさつ 思いやりあふれる 和田小」をスローガンに掲げ、元気なあいさつを広げるポイントについて話し合った。

- ・ 自分からあいさつや会釈をする
- ・ あいさつをされたら必ず返す
- ・ 立ち止まってあいさつをする 等話し合ったことをポスターに表し、あいさつ運動を行った。

(二) ニコニコ月間(いじめ防止啓発強調月間)の取組



【児童会あいさつ運動ポスター】

五月二十五日から六月二十五日のニコニコ月間に、「あいさつ」や「言葉遣い」「行動」について振り返り、標語作成に取り組んだ。選ばれた標語を全校朝会で紹介したり、校内に掲示したりしている。自分が人にされていやなことをしない、言わない、自分がされてうれしいことの実践の習慣化を目指し、いじめの未然防止及び早期発見・解消に努めている。

(三) PTA「朝のあいさつ運動」の取組

本校PTAでは、朝の登校時間帯に子どもを見守る活動が続いている。年度初めに、警察署の方をお招きして交通安全セミナーを実施し、交通安全指導時の心得について学んでいる。令和二年度鹿児島市安心安全まちづくり市民大会「交通安全功労団体表彰」令和三年度鹿児島県「交通安全功労団体表彰」令和三年度鹿児島県「交通安全功労団体表彰」を受けた。あいさつ運動の誌に、「元気にあいさつをしてくれる子が多く、お礼まで言ってくれる子もいて、気持ちよかったです。」等のうれしい報告も増えてきた。

三 おわりに

創立百二十周年の歴史と伝統の中で築かれたよき校風、学校と地域のつながりを受け継ぎ、保護者や地域の方々と共に、子どもが輝く教育を目指していきたいと思う。

一日の始まりのあいさつをこだまのように響かせ、心から笑顔で思い切り活動できる日がくることを願っている。

和田小 いじめをなくそう大作戦!!

元気なあいさつがこだまのように響き
笑顔あふれる和田小学校

★和田小 いじめ ぼくめつ 宣言★

- ①わたしたちは、他の人をいじめません。
- ②わたしたちは、いじめられている人を助けます。
- ③わたしたちは、一人ぼっちの人(仲間はずれにされている人)を仲間に入れます。
- ④もし、だれかがいじめられているのを見たら、先生や大人にそのことを話します。

いじめをなくそう大作戦～標語～

- ★ いっしょにあそぼう みんなともだち
- ★ やめようよ ちくちくこぼれ かなしいよ
- ★ 使おうよ ふわふわ言葉で いじめなし
- ★ 耳すまし ころころこえを きいてみよう
- ★ みんなでさ イジメなくそう いますぐに
- ★ ぼくが守る きみが守る やさしい心 いつまでも
- ★ いじめゼロ みんながニコニコ 笑顔100
- ★ 人の心も大切に 自分の心も大切に みんなのことを考えよ
- ★ 助け合い 広げてゆこう 笑顔の輪



互いを認め合う環境の中で

自分に自信をもつ教育活動の推進 「みんなGOOD口之島」のもとに

口之島小中(鹿) 大園 和 浩

一 はじめに

本校は、十島村有人七島の最北端に位置する。鹿児島市を午後十一時に出港し、翌日の午前五時に到着する。島の最高峰である前岳は島民の生活の羅針盤、北端のフリイ岳からは島の北半分を一望でき、見渡す限りの東西の海岸線と琉球竹に目を奪われる。南方は野生牛の生活地であり、まさに自然と人間との互助関係が成り立つ環境の中で児童生徒は成長していく。

本校は、小学校・中学校の併設校で、現在、小学生六名、中学生五名の計十一名が在籍している。十一名のうち、八名が鹿児島県内外からの十島村山海留学生で、親元を離れ里親や寮で生活している。

二 取組の実際

(一) 個を認め合うキャッチフレーズ

留学生には、個々に課題を抱え環境を変えて新しい自分を創造したいと願う児童生徒もいる。しかし、環境が変わり、すぐに自分を変えられるものではない。児童生徒の実態を追っていくと、自分への自信をもたずに自己を表出できていない状況が多く

見られた。

口之島の島の形を御存知だろうか。地図で口之島を拡大していくと、親指を上にならべて「GOOD」を表しているように見える。掲げたキャッチフレーズは、口之島の形を生かし、在籍するすべての子どもたちの特性を受容しながら自分に自信をもった児童生徒の育成を目指すものである。

どんな小さなことでも、努力した時、やり遂げた時、我慢した時などの後には「GOOD」を示し笑顔で終わるように努めている。

(二) 夢を大切にしたいキャリア教育

長期視点に立った将来の夢、学年末・学期末・一週間を見据えた中期視点の目標、そして一日・一時間といった短期視点での目標を大切にしたい授業づくり、生活づくりを行った。

当初は、自分の将来の夢や希望をもてずしていた児童生徒が多かった。今、自分が学習や活動していることの意義を見出すことで自信につながっていく。目標が設定されると、その達成のための見通しをもつよう

になり、立案・実践・振り返りの展開につながる。

(三) 一人一人の出番の設定

全児童生徒数が十一名であるため、自ずと学校行事等における児童生徒の出番が多くなる。運動会では、これまで経験の機会がなかった応援団長や応援団の役割もしていかなければならない環境である。この環境・機会を生かし、できた・やりきったという達成感と周りから認められた喜び体験を通して自分に自信が生まれ、他の学習活動も積極性が見られるようになっていく。

(四) 地域を取材する児童生徒会新聞

小学生と中学生が一緒に作成する児童生徒会新聞「タモトユリ」は、必ず口之島の伝統や環境、人などについてテーマを設定している。島民へのインタビュー活動を通して、地域との交流が生まれ、地域に個々の児童生徒の活躍が認められる絶好の機会となっている。

三 おわりに

初めて口之島に留学生として来島した時には、親元を離れての新しい環境に慣れず、時には寝床や電話口で涙を流すこともあった児童生徒が、秋の運動会では、多くの島民の前でも大きな声で応援フレーズを堂々と言えるまでに成長している。児童生徒は、周りに受容され、体験機会を与えられることで、自分に自信をもつことができる。「みんなGOOD口之島」をさらに浸透させていきたい。



息子とプール掃除したよ

塚脇小(始伊) 上野 智 一

再配で赴任した年の八月初旬。少し長めの休暇を取っていた。夏休み後半は、九月開催の町水泳大会に向けて、練習を頑張るつもりでいた。そんな矢先、台風が発生。その影響で学校のプールに、大量の落ち葉が入り込んでいたのだ。一週間ぶりに出勤すると、校長先生が開口一番、「台風通過後、帰省していた大学生の息子と二人で、プール掃除をしたよ。」と言われた。私は「休暇を取っていたので仕方がない。」というのが正直な気持ちであった。夏休み後半に子どもたちと練習し、水泳大会では、練習の成果を発揮し、好成績を残すことができた。その日に行われた反省会の席上、校長先生からねぎらいの言葉があるかと思いきや、「先生は、台風通過後、体育係としてプールがどういう状態になっているのか全く考えていなかった。水泳指導だけでなく、プール管理も体育係の大事な仕事

です。」と厳しい口調で言われた。他にも私の仕事に対する姿勢の甘さを指摘。私は、心より猛省し、翌年からプール管理にも取り組むようになった。三校目の学校は、水泳が盛んで、六月から八月までの三か月間、水泳指導やプール管理に深く関わった。管理職になってからは、特に土日のプール管理を大切にしてきた。体育主任と連携してうまく管理できた年もあれば、プール開き前にプールの水が濁ってしまい、オーバーフローさせながら、ブラシで必死に壁を磨き続けて凌いだ年もあった。本年度夏休みに水泳教室を開き、子どもの泳力を最後に伸ばすことができた。「息子とプール掃除をしたよ。」転勤先で、台風災害や豪雨災害等に合うたびにこの言葉を思い出し、校区の被害状況の把握や災害後の対応等を当たり前のようになお且つ責任を持って行うことができた。大切なことを教えていただいた校長先生と息子さんに感謝したい。

置かれたところで咲きなさい

安房中(熊) 福永 修 一

「赴任したところに骨を埋める覚悟で過ごさない。」今から三十年ほど前、新任教員となった時に校長先生からいただいた言葉である。教員として学校も初めて、授業はもちろん、部活も校務分掌も何もかも初めてのことだらけ、先輩の先生方などから様々なことを御指導いた

だき、また、助けていただきながら何とか初任校の四年間を過ごすことができ、次の埋蔵文化財センターへ赴任することとなった。赴任して所長からいただいた言葉は、「ここでは、土を好きになりなさい。それと調査と一緒に仕事をする作業員さんを大事にしなさい。」であった。「土」とは何だろうとの疑問から始まった埋蔵業務は、一からの出発である。遺跡の発掘調査を行うのだが、専門的に学んだこともないため、解らないことが分からない状態である。先輩方につかず離れずしながら学ぶ日々。実際の作業は、年配の作業員さんと一緒に遺物の出土する層や遺構を掘り下げながら様々な遺跡の調査を行っていた。「土」とは、遺物が含まれている層や遺構の埋土、鹿児島特有の火山噴出物の層である。これらを詳細に検証しながら遺跡の時代や時期の特定をすることであった。ある時、ベテランの大先輩から、学校と埋文の仕事は違うけど、埋文で仕事を頑張ることができれば、どんなところ、どんな仕事でもできるようになるから、頑張りなさい。と教えられ、気がついたら二十年の間、埋蔵文化財に携わっていた。

この四月から久しぶりの学校生活である。町教育委員会主催の宣誓式で教育長より「置かれたところで咲きなさい。凜と咲くヤクシマシヤクナゲのように先生方が幸せを咲かせ輝きなさい。」と、お言葉をいただいた。

生徒が「今日も学校に行って良かった。明日も学校で頑張るぞ。」と思える学校、職員が誇れる学校を職員と共に作り上げていきたい。

どの子もよくなりたいたいと願っている

田崎中(隅) 竹ノ山 誠 忠

十数年前、生徒指導上の課題の多い学校で、難しい対応に日々奔走していた。担任や生徒指導主任と家庭訪問をし、夜遅くまで保護者と話し合ったが、解決していくどころか問題は増えるばかりであった。そのような中で、学校への不満や教師への不信感を持っている一人の生徒Tさんに関わることになった。反発が強く、話すこともままならない、どう対応すべきか途方に暮れた。そんなとき、当時教職員の相談員をされていたA先生から思いがけずお手紙をいただいた。

「涙の濁っていると思われる子と共に涙する取組が求められているように思います。生徒指導や子育てで行き詰まったとき拠所にしたのは、『どの子もどの子も一人残らず本当はよくなりたいたい』と心の底では強く強く願っている存在なのだという認識に立つということだろうと思います…。」

Tさんは、A先生が校長を務められていた学校に一時期在籍していたのである。A先生は、学校ぐるみで関わることを職員に提案され、Tさんが学校に来ない日は先生自身も毎日のように家庭訪問し、保護者とも徹底して関わってこられた。転校した後も、手紙を書き送り電話連絡を続けられていた。手紙を読みながら、自分はその本質を理解し、きちんと向きあってきたのか、これまでの姿勢を問われたように感

じた。教師としての未熟さを痛感しながらも目の前が開けたような気がした。それ以降、Tさんへの言葉も変わり、前向きな会話が少しずつ増えていったように思う。判断に迷いが生じたとき、指導に行き詰まったとき、その手紙を読み返している。

現在校でも、不登校の課題に対して、居場所づくりや学校全体で関わる体制を整え、対応の充実を図っている。登校するまで二年を要した生徒が、支援を受けて目を輝かせて勉強に励んでいる姿がある。生徒の心の奥にある願いをいつも根っこに据えていきたい。

自分のペースで頑張ってみます。

出水養護 奥 政 治

昨年末まで勤務していた前任校で出会ったA君は自閉症スペクトラムがあり、小学校の特別支援学級では欠席がちであった。学校見学を経て「この学校で学びたい。」というA君の意思で特別支援学校の中学部に入学してきた。入学当初は緊張気味であったが、担任や同級生、学部先輩たちとの関わりを通して登校できる日が増えてきた。

二年に進級し、自信を回復し、学習や苦手意識があった運動にも全力で取り組む姿に成長を感じた。自閉症スペクトラムがある児童生徒の中には、最初から全力で取り組み、途中で燃え尽きてしまう子もいる。A君も登校したい気持

ちはあるものの気力が伴わない状態から長期の欠席となった。

保護者と連携しながら、登校できた日は必ず挨拶を交わしたり、「頑張っているね。」と言葉を掛けたりした。同級生は、校外学習の際に自分たちのお小遣いでA君にプレゼントをかうという温かい雰囲気の中、A君も登校できる日が出てきた。

三月で異動となった辞任式の日、運動場の少し離れた場所にいるA君を見つけた。久しぶりの再会であったが、A君は自分で選んだ花束とともに、「先生は、頑張れではなく、いつも頑張ってるねと言ってくれました。自分のペースでいいんだよと言ってくれました。僕はこれからも自分のペースで頑張ります。」と力強く話してくれた。

特別支援教育の対象となる児童生徒の中には、A君のように障害の特性から、頑張っているがうまく解決できていない状況が生じているケースがある。今回のA君の力強い決意と成長をうれしく思い、私の心にA君の言葉が強く残った。同級生や周りの大人が一人一人の違いを認め合い、自分なりに頑張る乗り越えていける、そのような状況作りにもこれからも取り組んでいきたい。





「ふわふわ言葉」いっぱい
 (いじめ防止啓発強調月間(ニコニコ月間))

西谷山小(市) 吉 峯 進

一 『ひとりひとりのやさしさ』読み聞かせ

(ウッドソン・ジャクリン作)

二 講話

皆さんの授業の様子を見て回ると「○○さんの考えは、ここがいいと思います。」などと、友達の考えの良いところを発表している人がいます。また、隣の人やグループでの話合いの中で、友達の発言にうなずいたり、「それいいね。」と声をかけたりする人がいます。中には、友達の発表に大きな拍手を送る人もいます。

自分の発表が友達から「いい考えだ、いい意見だね。」と褒められたり、拍手をもらったり、自分のしたことや話したことが「さす

が、すごい、すばらしい。」などと認められたりすると、みんな嬉しいよね。このように、心が温かくなる言葉、思わず嬉しくなる言葉、やる気が出る言葉を「ふわふわ言葉」と言います。

反対に、相手の心を傷つけてしまったり、相手や周りの人に嫌な思いをさせたりしてしまう言葉を「ちくちく言葉」と言います。

皆さんは、友達から「○○さんは、二重跳びが上手に跳べてさすがだね。」「○○さんの投げるボールは、速くてすごいね。」「○○さんは、掃除を頑張っていてすばらしいね。」などのふわふわ言葉をかけられると、どのような気持ちになりますか。嬉しいし、とつてもやる気が出てくるよね。「○○さん、おはよう。」などの挨拶や「○○さん、一緒に遊ぼう。」などの声かけも気持ちいいね。反対に「ばか」「うざい」「嫌い」などのちくちく言葉を言われると、嫌だし、悲しいし、凹んでしまうよね。

それでは、ふわふわ言葉を使うには、どうしたらいいでしょうか。西谷山小学校のキャッチフレーズ「よく考え、よいと思つたらすぐやる」、このとおりにすることです。

六月二十五日までの「にこにこ月間」期間中は、特によく考え、ふわふわ言葉いっぱい、やさしさいっぱい西谷山小学校にしましう。

「努力の天才」

吹上中(鹿) 有 村 宏 史

二学期も残すところあと二週間余りとなりました。期末テストも終え、各教科学習のまとめに入っていると思います。テストは、日頃の努力の成果が出ていたでしょうか。

さて、今朝は「努力の天才」と呼ばれた元メジャーリーガーの鈴木一朗選手の話をしたと思います。今年、大谷選手がメジャーで MVP を獲得しましたが、このイチロー選手はメジャーで首位打者や盗塁王となり、日本人として初めて MVP を受賞した選手です。そのイチロー選手は次のように言っています。「努力をせずに、何かできるようになる人のことを『天才』というなら、僕はそうじゃない。」「努力をした結果、何かできるようになる人のことを『天才』というなら、僕はそうだと思う。」「人が僕のことを、努力もせずに打てるんだと思うなら、それは間違いです。」と。

つまり、「他の人が一回でできることを自分ではできないのなら、二回、三回やる。それでもできないなら十回、いや百回やるのが大切なのでは」と言っています。「努力に勝る天才なし」という言葉もありますが、「できる人は、見えない所でも努力している」ということ、「何でも、できるようになるためには努力しなければならぬ」ということだと思います。

先週は、新生徒会になり初めての生徒集会がありました。スムーズな進行で「さすが生徒会を代表する人たちだなあ。」と感心しましたが、あの生徒会役員の人たちは、何も努力せずに、あのようにスムーズに生徒集会を進めることができたのでしょうか。生徒会引継式の時に、旧生徒会役員の人たちが「特に初めのうち、慣れるまでは緊張して人前で話すのがたいへんだった。」と言っていました。新生徒会の人たちも、見えないところで準備・努力をしていたからこそ、スムーズな生徒集会の進行につながったのだと思います。

先ほど話をしたイチロー選手は、現役時代練習で黙々とバットを振り続けていたそうですが、ただ漫然と数をこなす訳ではなく、その日の目標を決め、それを達成したいと臨むからこそ集中力を保った状態で練習ができたということです。彼はこうも言っています。「夢を掴むということは一気にはできません。小さなことを積み重ねることで、いつの日か信じられないような力を出せるようになっていきます」と。ですから、小さなことでもいいので目標をもって、日々続けることが大事だということです。イチロー選手も努力の積み重ねがあつて、あの大きな活躍へとつながったのでしょう。全校生徒の皆さん、イチロー選手の言葉を肝に銘じて、学習にしろ運動にしろ全てのことに、一人一人が努力を惜しまず頑張りましょう。今後も、更なる皆さんの努力と活躍を期待しています。

いざというときに備えて

川辺中(南) 川原 啓 司

今日は火災を想定しての避難訓練でしたが、真剣に取り組むことができましたか。テレビでは毎日のように火事のニュースがあり、最近も中国の商業施設での火災の様子が放映されていました。真つ黒な煙が立ち上る中で、逃げ遅れた人たちが窓から必死に助けを呼び、中には飛び降りる人もいました。炎と黒煙が迫ってくる様子は火事の恐ろしさをあらためて感じることでした。

さて、このように火事や災害の現場で、逃げ遅れて命を落としてしまうのはどうしてでしょうか。仮に皆さんが次のような場面に遭遇したとします。

○買い物中に突然火災警報器が鳴り始めた。
○周りの人はまだ買い物続けている。

その時、あなたはどのような反応をしますか。

- 1 すぐに避難を始める。
- 2 予期せぬ警報に茫然として動けなくなる。
- 3 まさか火災ではないだろうと考える。
- 4 周りの人にあわせて避難しない。

このように、予期せぬ出来事に茫然として体が固まってしまったり、これくらいなら大丈夫だと思ひ込んだり、周りの人にあわせて安心感を得ようとしたりする人は、当然逃げ遅れてし

まいます。このような心理に陥ってしまうのは何も特別なことではなく、誰でも持っている心理的な特性であるようです。

大切なことは、このような心理的な特性は誰でも持っている、これが災害時の避難に影響するということを入れておくことです。そして少しでもおかしいと感じたら、気持ちを切り替えて、周りの状況を注視しながらいつでも避難できる備えに入ることです。

そのためにも、今日のように緊張感のある訓練を繰り返し行うことが、いざというときの冷静な判断力を養い、素早い避難行動につながります。皆さんもいつでも心の緊急スイッチを押せる準備をしておきましょう。



話のひろば



今でもふと 思い出す匂いから

松ヶ浦小(南)
本 蘭 丈 洋

学校の帰り道、近所の庭先にみかんの木が植えてあった。実が付く季節になると、なんとも言えない甘酸っぱい匂いがツーンと漂ってきた。青々としたみかんから放たれるその匂いは、五十年経った今でもはっきりと覚えていた。

この青々としたみかんの光景を思い出すたびに、国語の教科書にあった「みかんの木の寺」という話を思い出す。この話に出会ったのは、小学二年生だったと思うが、学校帰りに経験した夏みかんの甘酸っぱい匂いとこの話に出てくるみかんの匂いが繋がって共感できたことと、和尚さんと子どもたちのやりとりが印象深かったことが要因だろう。青々としたいい匂いのするみかんを取りたい子どもたちとそれをさせまいとする和尚さんとのやりとりの中で、熟すまで我慢して待つことの大切さを教え、盗んで食べることを戒めた和尚さんの優しさは、甘くておいしいみかんを食べた子どもたちに伝わった

のだと思った。「すっぱいみかん」を食べるか、「おいしいみかん」食べるかは、人生の分かれ道となるようで興味深い。実は、私にもその分かれ道となるような出来事があった。

小学一年生か二年生の頃だった。その頃は十円でお菓子を買える時代だった。夏の暑い日にアイスを買おうと三十円持って友達と近所の商店に出かけた。その時、店先で百円硬貨三枚を見つけた。その拾ったお金で友達とサイダーを買って飲んだ。夏の暑い昼下がりに飲む冷えたサイダーは格別においしかった。そのことを仕事から帰ってきた父に得意気に話すと父の顔色が変わった。そして、父は「今から交番に行くぞ。」と一言言っ、私を交番に連れて行った。交番で父から手渡された三百円をおまわりさんに渡して、拾った場所と日時を伝えた。厳しい面をもつ父ではあったが、その時に怒られた記憶はない。帰り道にお金について静かな口調で諭されながら、拾ったお金をどうすればよいのかを学んだ。私はこの出来事以来、自分の物と他人の物との区別をつけたり、お金の貸し借りについてしっかり考えたりするようになった。子どもは、身近な大人との関わりの中で成長し、人格を形成していく。心に残る経験は、一生を左右するものになるかもしれない。子どもたちの身近な存在である我々教師は、常にこのことを踏まえて子どもたちに接していきたいものである。

管理職試験の

思い出

伊敷中(市)
河 瀬 雅 之

最初の試験は全国大会での発表等とも重なり、多忙を言い訳に準備不足であったため見事撃沈。翌春には環境の異なる研究校勤務となった。そこでも、異動直後の公開授業など多忙を極めていたが、ここでS校長との運命的な出会いがあった。

「この問題を明日までに仕上げ持ってきたさ」と言われたのは、公開を目前に控えた六月初旬のこと、何でもこのタイミングなのか恨めしくも思ったが、とてもそんなことが言える雰囲気ではない。無理を押し、なんとか期限内に合わせ提出すると、その場で添削が始まり解答は無残にも赤だらけ、最後に三五点と書かれると「手直しをして明後日までに持ってきたさ」と次の指示が出された。今度は一日の余裕があったが、もう公開は目前である。夜中まで仕事をし、自宅で問題に取り組んだ。

その結果は四五点。「この調子で頑張れ。」と言われ、すぐさま次の問題を手渡された。しかしこの時は、さすがに「公開が終わってからのできたときに持ってきたさ。」と指示された。公開当日までは試験のことは忘れ、最後まで授業準備に集中したが、翌日にはモードを切り替え、月曜の朝、指示された課題を提出した。

ここでは、いきなり採点されることもなく、初めての公開はどうだったかと、試験とは関係ない話をされ、授業にかけた思いなどを丁寧に聞いてくださった。そのときの採点結果はというと四〇点。前回より低い点数に落胆したが、

厳しい指導はこの後もしばらく続くことになる。

七度目の提出で初めて六〇点をもらうことができた。そして「合格」と言われた。合格点は八〇点ぐらいと思っていたので、それは意外だった。

そして迎えた試験、昨年の失敗が一瞬脳裏をよぎったが、時間に余裕が持て合格できた。

そのことを校長に真つ先に報告すると、校長は私に「指示した期限までに、レポートを提出したのは、おまんさあだけだった。あの時あんたは合格した。」といわれた。

今思えば、この校長に試されていたのだと思う。酒癖が悪く、飲んだら必ず怒鳴る校長だったが、とても人間味の深い校長だった。いつかはこんな校長になりたいと思った。

「未来への礎」

加治木高

宇都 尚美

今年四月、創立

百二十五年を迎える

母校に赴任した。久

しぶりに正門をくぐ

り校内を巡るうち

に、懐かしさがこみあげ

思い出がよみがえって

きた。緊張しながら初めて

教壇に立った教育実

習のことは今でもはつきり

と覚えている。今ある

私の原点だと改めて思

う。校内には、つたか

ずらに覆われた石垣や文

学碑、樹齢百年を越える

大木など、歴史と伝統の

重みを感じさせるものが

至るところに存在する。「

亡師友の碑」とともに並

んで建つ「殉難学徒の碑

」もそのひとつ。十六人

の名前が刻まれている。

一九四五年八月十一日、終戦四日前、

母校は米軍機の爆撃

を受けた。校舎はすべて焼失し、学期末試験を受けるために登校していた十五人の尊い命が失われた。これに先立つ三月には通学途中の生徒一人が命を落としている。若くして突然命を奪われた無念さや、かけがえのない存在を失った人々の悲しみ、戦争というものの理不尽さ、平和の尊さを感じずにはいられない。グラウンドを見守る樹齢四百年と言われる大楠は瀕死の状態を乗り越えて今も新しい息吹をもたらし続けている。

百二十五年の年月の間には決して平穏な時ばかりではなく、戦争や戦後の混乱による幾多の困難にも遭遇してきた。しかし、いつの時代にも子どもたちが心に抱く夢や希望が原動力となつて生徒と職員がともにたゆまない努力と研鑽を積み重ねてきた。お互いに切磋琢磨して学び合う気風は脈々と今に引き継がれてきている。

仲間とともに喜びや苦しみを分かち合いながら

文武両道に励む姿は昔と変わらな

い。今年

の生徒会スローガンは「愛輝く瞬間を彩

る」人生一度きりの高校生活を謳歌したいと

いう生徒の想いが伝わってくる。これからの時

代を生きる子どもたちが、過去に学び、未来に

夢や希望を抱きながら今を一生懸命生きること

を切に願う。自分の持てる力を、将来、社会の

ために役立てようと考え続けながら、自分の生

きる道を探してほしい。今、地球上で起こって

いることを自分事として捉え、未来社会を創造

できる人間。そんな子どもたちを育てるために、

どんな学校づくりをしていくのか、自分自身に

問われている課題である。新しい風を感じなが

ら前進していききたい。

読書案内



池上彰 著

なぜ、いま思考力が必要なのか？

永野小(北) 田 邑 八重子

本の帯に「本当の頭のよさとは、自分の頭で考える力のことです」そして、「自分の頭で考えないと、他人の考えに自分の頭の中が支配されてしまい、世の中の大勢に流されたり、不安でパニックになったり、デマを信じたりしてしまいます。」といった内容が書かれていた。まさに今の日本の現状を表している内容ばかりである。どうすれば、「思考力」を育てることができるのだろうかという思いで本書を読んだ。

本書には、新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大したとき、いろいろなデマが飛び交い、買い占めなどのパニック状態が起こったこと、東京オリンピック開催前の関係者による人権問題が発覚し、海外からも非難される事態が起こ

ったことなどが最初の方で書かれていた。つい最近日本で起こった出来事である。これらのことは、多くの人々がしつかり自分で考えずに行動した結果である。

筆者は、日本の教育についても問題があると述べている。答えのある問題が多く、自分なりに考えさせる問題が少ない。教師は、自分が期待する答えを出した子どもたちだけを賞賛していると・・・。私も、早く結果を求めるあまり、子どもたちが自分なりに考えるといった過程を最も大切にしてこなかったことを反省した。

また、本書には、今年度から、高校の社会科学の内容が知識偏重から思考力重視へ変わったことが書かれていた。高校の先生方も意識を変えなければ、指導の仕方は変わっていかない。これまでのやり方を変えていくことは大変だが、変えていく必要がある。思考力重視の考え方は、高校だけでなく、小学生から必要である。人はみな、大なり小なり、いろいろな壁にぶつかる時が必ずやってくる。答えのないことが多いが、その壁を乗り越えるためにも「自分なりに考える習慣」がなければ乗り越えられない。

本書には、子どもから大人まで、自分をよりよく変えるための思考に関するヒントがいっぱい詰まっている。是非多くの人に読んでもらい、よりよい日本へと変わることを願いたい。

講談社+α新書 九九〇円

■重松清 著

きみの友だち

岩北小(隅) 有村 浩 一

私は、学校という文化の中で子どもたちに向き合いながら、何度となく「みんな」や「友だち」の言葉を用いて、子どもたちの様々な状況や場面を深く考えずに収めようとしてきた。

しかし、子どもたちの世界は、教師の私が思うような簡単なものではない。複雑で過酷な世界で、心がたくたくに疲れてしまったり、深く傷ついたりする世界である。昔、子どもだった自分もそうだったのに、教師を職業にしてからどこか忘れてしまっている自分がいた。浅はかなことである。当然のことながら、仕事に行き詰まり、自分が大切にしている価値に自信がなくなってしまう。

そんなとき、この本と出会うことができた。短編連作の構成をとるこの小説は、どの物語の中にも、「みんな」の中で必死にもがき苦しみながらほんとうの「友だち」について考える子どもたちがいて、私自身の中にあるいやな部分もそこにある。

主人公の恵美は、「一緒にいなくても寂しくない相手のこと、友だちって思うけど」、「いなくなっても一生忘れない友だちが、一人、いればいい」と言う。

この小説の文庫版は常に私の近くにある。単行本は自宅書棚である。毎年読み返す。読み始

めたら簡単に止めることができない。その度ごとに私の心は動く。読みながら見えるのは、その時々自分の心の中にある弱い面や気持ちさがグラグラしている自分である。

読み終えた後、そこから前に進もうと思えるのだ。私は、子どもたちがほんとうの「友だち」と出会えるよう、「友だち」のほんとうの意味を学べる学校であるよう前に進む。勇気をもらったのは私だ。

新潮社 八二五円(文庫版)

■伊庭正康 著

強いチームをつくる!

リーダーの心得

小宝島小中(鹿) 飛松 正文

校長になって三年目となる。教頭から抜擢されて、初めて校長になったとき、「自分は校長としてやっていけるのか」とものすごく不安に思った。実際、今でもその不安は残っているが・・・。

その不安を解消するために、これまで書店に行けば「自己啓発」のコーナーにしか行くことはなかったが、「ビジネス書」を手取るようになった。それらを読んでいく内に、組織の運営の仕方や職員との関わり方等の共通点に気付くことができた。そんな中でも、この本には新鮮さを感じたものが幾つもあった。挙げると、

- すぐれたリーダーはアドバイスを我慢し質問で部下を動かす。
 - 主語をWEにする。すると、チームの一体感が高まる。
 - すぐれたリーダーは部下を「囚われ」から解放する。
 - 職場は「誘惑」だらけである。だから、リーダーは、抑止力を働かせること。また、特に、業績等評価の面談の際に役立つものとして、
 - GROWモデルを使うと、部下を主役にできる。
 - G 目標を決める。
 - R 事実把握に努める。資源の発見を行う。
 - O 対策の選択肢をつくる。
 - W 本人の意思に導く。
- 最後に、任せた仕事の「持ち主」はリーダー。ねぎらいは「おめでとつ」ではない。「ありがとう」である。
- 今後、日々成長しようと頑張っている子供たち、そして、それを支えてくださっている先生方に感謝の気持ちをもちながら学校経営を行っていききたい。

明日香出版社 一四〇〇円＋税



■喜多川泰 著

運転者

未来を変える過去からの使者

出水高 宮原 義文

この作品は、Amazonの「小説・文芸売れ筋ランキング」において、常に上位にランクされている。著者は喜多川泰氏。学習塾経営の傍ら、執筆活動をしている方のような。

物語には、うだつの上がない営業マンが登場する。仕事も家庭もうまくいかず、「なんで俺ばっかりこんな目に遭うんだよ。」と独り言をつぶやく彼のもとに、一台のタクシーが停まる。この車の後部座席に乗り込んだことで、彼の運命は大きく変わっていく。

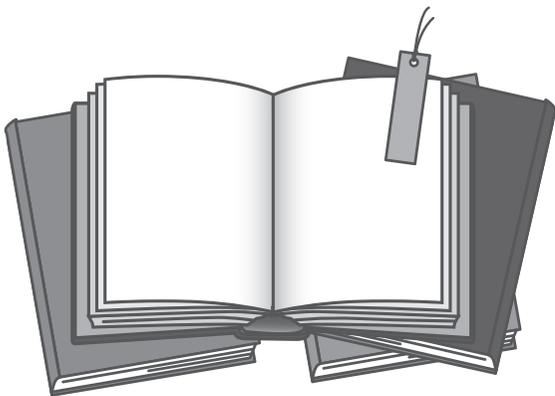
喜多川泰氏は、お世辞にもメジャーな作家ではない。しかし、彼の作品が好きだという声をよく耳にする。ある教員は、部活の生徒が卒業する際、一人一人に喜多川泰氏の作品をプレゼントしているそうだ。また、前任校の図書館では、教員や生徒のリクエストに応えて、図書館だよりで彼の作品を特集した。

私が初めて喜多川泰氏の作品に触れたのは、管理職になって四年目の冬。たまたま雑誌で、「運転者」の書評を読んだことがきっかけだった。以来、「賢者の書」や「手紙屋 蛍雪編」など、代表作と言われる作品を数冊読んでいる。なかでも「運転者」に関しては深く感銘を受け、離れて暮らしている子どもたちの分まで余分に

買ひ込み、わざわざ宅配便で送ったほどである。上の娘は、自身のインスタグラムで、「この本は何度も何度も読み返している、自分の人生にとって大切な一冊。」とコメントしている。

「長い目で見たら、報われない努力なんてありません。あまりにも短い期間の努力で結果が出ることを期待しすぎているだけです。」「運転者」の中で、タクシーの運転手が営業マンにかけた言葉である。人生に迷いが生じたとき、生きる手がかりを与えてくれる、そんな作品だ。

喜多川泰氏の作品には、大人はもとより、中学生や高校生にも勧めることができる良書が多いと感じている。皆様、次の休日、近くの書店で彼の作品を探してみてはいかがであろうか。デイスカヴァー・トゥエンティワン 一六五〇円



これまでPTA新聞のアンケートなどには、趣味といえば、読書・ゴルフ・ジョギングなど書いていた。

今は、趣味「アル中」です。

アルコール好きではなく、歩く中毒（アル中）である。アル中の日々のルーティーンは、次のようなものである。

〈朝〉

午前5時35分にスマホのアラームが振動します。消音にしています。音が出るのと安眠妨害だとうちのサザエさんから、クレームが入る。実際には、5時過ぎには起き出している。念のためのアラームである。

趣味・文芸



「アル中」

原田小(隅) 若松 剛志

〈休日〉

週休日や祝日は散歩しない。サザエさんは、8時頃までじっくり睡眠をとりたいようである。私は私で、朝4時過ぎからそわそわと起き出し、5時頃から3時間ほどゆっくりとあちらこちらジョギングを楽しんでいる。至福の時である。ランナーズハイになりいろいろアイデアが突然浮かび上がる。アイデアはすぐに歩きながらスマホに記録している。

〈水曜日〉

水曜日の夕方は歩きはしない。水曜日は本校では「KD」教頭デー＝教頭の日」なので、教頭は午後5時までは退校することにして

〈夕〉

いる。教育課程の月行事に明記してある。校長が戸締まりをする日である。午後7時過ぎ施設をして退校する水曜日である。

5時過ぎに起きてまずはコーヒーを入れる。散歩前に飲む分、朝食分、学校に持参する分、サザエさんの分の合わせて、5人分は入れる。水は、関平温泉水、豆は、お気に入りのコーヒー店のもの、贅沢している。

やがて5時45分になるとサザエさんに「いくよ」と声をかける。サザエさんは、あつという間にトイレを済ませ着替えを済ませコーヒー

夕方は、午後5時には退校する。歩きは、5時20分頃からになる。朝のコースとは違うコースにしたいが、いつものコースに庭で猫を数匹飼っているお宅があり、ついついそのコースになる。猫を見付けるとサザエさんと2人「ミャー」「ニャー」などと話しかけ不審人物になる。時には、夕方は3・3kmの歩きになる。朝夕合わせてると1日6km近くの散歩になる。





産業の発達とともに歩む学校

申木野西中(鹿) 摺木直人

一 いちき申木野市の概要

薩摩半島の北西部に位置し、西に白砂青松が続く吹上浜の海岸線を臨み、東に徐福伝説の霊峰冠嶽を控えるいちき申木野市は、海・山・温泉などの自然と温暖な気候に恵まれた風光明媚な環境の中にあり、また、三つの駅と二箇所の高速度インターなど生活環境と利便性にも恵まれたまちである。

二 本市の歴史

本市の歴史は、古くは縄文後期に人々が漁労や狩猟をして生活を営み、広い範囲にわたって人と物と情報の交流が行われ、江戸時代の陸上交通においては九州筋の宿場として、また海上輸送の中心地として物資等の集散地となり、宿場町と商業の地として栄える一方、金鉱業と遠洋まぐろ漁業のまちとして栄えてきたという、これまでに累々と積み重ねられた歴史と、そこから生まれた文化がある。また、1865年、薩摩藩英国留学生十九名が近代日本の礎を築くため羽ばたいた黎明の地としても知られている。

三 産業の発達と学校新設

本校は、いちき申木野市の西部に位置し、校区内には、西薩中核工業団地、申木野新港、申木野鉱山があり、これまで本市のみならず日本の産業を支えてきた工業や漁業、鉱業など多種多様な産業を身近に触れることができる環境にある。これらの特色ある産業は歴史的にも古く、申木野鉱山はかつて、1658年に第一号鉱脈が発見されて以降、島津家数名に引き継がれ盛衰を繰り返してきた。さらに、1900年頃から始まった遠洋まぐろのはえ縄漁は申木野でしか行われていなかった技術が基になっている。その漁船の船籍数は市町村単位では日本一であり、太平洋、大西洋、インド洋など世界各地で活躍している。

これらの歴史と伝統ある産業が息づくまちに新たに加わった事業所の一つに、全国でも数少ない「国家石油備蓄基地」がある。

現在、世界的な紛争や様々な要因によるエネルギー問題が生じている。太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの割合が増えてはいるが、石油への依存度は高く、日本にとつてその確保は重大な問題である。今から約五〇年前に起きた第一次石油危機以降、日本各地に造られたのが石油備蓄基地であり、全国に十か所ある国家石油備蓄基地のうちの一つが本市に建設された。本市の基地は志布志市や鹿児島市の備蓄基地とは備蓄方法が異なり、地下の岩盤内に空洞を設け地下水の水圧を利用して原油を備蓄しているため、地表に

大きなタンクは無く、その存在が人々の目に触れることは無い。目立たない存在であるが、国家の重要な役割を担っている施設である。このように本市の産業の発達や新たな事業所の設置に伴い、人口が増加し、本校区の生徒数も増加したため、昭和四十五年、当時の申木野中学校を分離し、加えて申木野市の北西部の荒川中学校、旭中学校を統合して新たに設置されたのが本校、申木野西中学校である。

四 学校経営者として

昨年度は創立五〇周年を迎え、保護者の方々を中心に実行委員会が組織され、コロナ禍ではあったが創立五〇周年記念事業を実施した。本校を訪れた卒業生の方々やその保護者の方々がそれぞれの時代の様子を語る表情には本校に対する愛情があふれていた。一方で、開校当時六七八名であった生徒数も現在は一〇九名と約六分の一になっている。生徒数は年々減少し統廃合の声を耳にするが、ここに学ぶ生徒やその保護者の願いを大切にする姿勢は変わるものではない。本年度は時代のニーズに対応するため、制服の変更に向けた検討委員会を設け、協議を重ねている。委員の方々の目は新しい制服に身を包む生徒の期待に応えようと真剣である。これからも、目の前の生徒や保護者、地域の方々の期待に応える学校文化を継承し、次の世代へ繋いでまいりたい。

総務部だより

総務部は、四月二十七日の定期総会（書面開催）において承認された活動方針や活動内容に基づいて活動している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策（以下、感染症対策）のため書面での会議となる場合もあったが、活動内容の一部を報告する。

一 地区校長会との連絡会

本年度も、夏季休業中を利用して各地区校長会との連絡会を実施した。連絡会では、連合校長協会の活動報告、地区の現状や課題の説明等を基に意見交換を行った。主な話題については次のとおりである。

(一) 業務改善

- ア 教育の質の向上を目指した学校行事や P T A 行事等の業務の見直し
 - イ 教員業務支援員の配置拡充
 - ウ 県内統一した校務支援ソフトの導入
- (二) コロナ禍における学習指導の充実
- ア I C T 機器の活用状況と課題
 - イ タブレット端末の持ち帰り指導状況
- (三) 中学校における部活動指導の在り方
- ア 部活動数の精選と業務の簡素化
 - イ 「地域移行」の現状と課題
 - ウ 外部指導員による引率業務の実態
- (四) 定年延長
- ア 人事異動方針や給与・処遇の考え方
 - イ 管理職の異動についての説明時期

(五) P T A との連携

- ア 学校運営協議会の運営方法
- イ P T A 任意加入の現状と課題

二 教育機関・諸団体との連携

「県教委との連絡会」は、七月一日に予定していたが感染症対策のため中止。「県 P T A 連合会との連絡会」は、予定どおり七月十六日に開催。学校・P T A の現状と課題等について意見交換が行われた。

県 P T A 連合会の主な質問に対する連合校長協会の回答した内容は、次のとおりである。

(一) コロナ禍における家庭教育支援の現状について

- ・ S N S 等を利用した交流の場の設定
- ・ 学校と協働した家庭教育学級の運営
- ・ 関係機関、民生委員との連携の強化
- (二) 不登校、いじめ、貧困の問題について
 - ・ 町内会、子ども会からの情報収集
 - ・ 関係機関と連携したケース会議の開催
- (三) 高等学校におけるタブレット端末の整備状況について
 - ・ 新生には県費で一人一台が配備。その他の学年は各学校で対応。
- (四) 部活動の地域移行について
 - ・ 県内全ての市町村で地域総合型クラブを設置又は準備中。
 - ・ 円滑な地域移行には全国中体連の規則変更が必要。

三 教育予算等に関する要望

各地区校長会・県立学校からの要望を庶務担当者会で集約し、原案を作成。その後、七月二十六日の総務部会での審議及び役員会での検討を経て、八月十六日の常任委員会で承認された。

今後、十月十八日に「人事並びに給与に関する要望」と合わせて県教委に要望する予定である。

四 総務部会

毎年、六月と七月に開催される総務部会は、各校種部会長からの情報提供や各地区校長会の現状と課題について意見交換を行う貴重な場となっている。

今年度は、昨年度に引き続き感染症対策のため書面での開催となったが、「学校予算に関する要望」の取りまとめを各地区校長会及び県立学校長会等に依頼するとともに、寄せられた要望事項について審議を重ね、校長の願いが県教委・市町村教委に届くよう努めてきた。

その他、日本教育鹿兒島の編集・発行、全国教育会鹿兒島大会の開催に向けて、日本教育会鹿兒島県支部と連携しながら準備を進めている。

総務部は、県連合校長協会の活動を総合的に推進する役割を担っていることから、今後、も諸団体や各地区及び各市町村校長会との連携を深め、学校経営上の喫緊の課題に対処するための活動の充実に努めていきたい。

Chance!

ピンチを凌げば必ず
チャンスは訪れる。
その好機到来を、
見逃してはいけない。



鹿児島東高等学校の芝桜

提供 「僕の贈りもの 日めくりカレンダー」

松山 武史 氏



一般財団法人校長会館だより

校長異動

○新任 令和四年八月三十日付

瀬戸内町立池地小学校校長

花里 弘 克 氏

○新任 令和四年八月三十日付

奄美市立芦花部中学校校長

小島 士郎 氏

(前枕崎市立枕崎小学校教頭)

○転任 令和四年八月三十日付

奄美市立名瀬中学校校長

木場 敏朗 氏

(前奄美市立芦花部中学校校長)

教育長異動

○再任 令和四年十一月七日付

垂水市 坂元 裕人 氏

季節の言葉 「長月」ながつき

星もなし 月は長月 十四日 正岡子規

残暑の厳しい時期から秋めいて涼しくな
ってくる月で、夜がだんだんと長くなって
いく月でもあります。

編集

後記



昨年度の本月号では、東京オリンピック真
つ只中であつたため、金メダルに沸いた日本
選手や女子四百Mリレーに出場した鶴田選手
(鹿女子卒)の活躍などについて記述した。
本年度、鹿女子二年生の大山選手が南米コ
ロンビアのカーリで行われたU20世界陸上競
技選手権大会で銀メダルを獲得した。初めて
の世界選手権とは思えないほど、終始先頭ダ
ループを引っ張り、力強い歩きを見せてくれ
た。最後はゴールライン一步のところであつ
されたが、見事な試合運びであつた。このよ
うに毎年素晴らしい活躍を見せてくれる若人
に敬意を表するとともに、記事として書かせ
ていただけることに感謝するばかりである。
さて、先日鹿児島市の高等学校PTA研修
会が開催され、卒業生や在校生が、「主体的
な進路選択」をテーマに発表をした。卒業生
からは、「様々な経験をすること」「学力を付
けることで進路選択の幅が広がる」「自己分析
と情報収集が重要」、在校生からは、「社会の
一員として仕事を通して社会に貢献したい」
「主体的に学ぶことを止めずにリーダーシッ
プをとることのできる社会人に成長したい」
などの発表があつた。これらの言葉から、自
分の学力を付け、望んでいる進路先を決定し
たい。主体的に学び、将来社会貢献をして立
派な大人になりたいと願う姿がうかがえる。
このような若者の希望を叶えるために、私た
ちは、真摯に授業改善や特色ある教育活動に
向けて日々努力していかねばならないと
気持ち新たにしたい。多くの先生方の夏季休
業中の研修が生かされることを期待したい。

(鹿児島女子高校 福永純一郎)